

**アルミニウム二次地金同合金地金等生産実績(1)**

(社)日本アルミニウム合金協会

(平成22年 1月)

(単位：トン)

区分 地区別	月初在庫	受 入				消 費	出 荷			過欠補正	月末在庫
		生 産		その他	計		販 売	その他	計		
		自家生産	受託生産								
関 東	9,855	20,209	3,282		23,491	20,095	3,274	23,369	+1	9,978	
中 部	6,863	20,232	1,006	545	21,783	19,712	1,676	21,388	+1	7,259	
近 畿	6,157	14,616	2,329	58	17,003	14,203	2,329	16,532		6,628	
九州四国中国	1,977	3,272	281		3,553	3,180	281	3,461		2,069	
計	24,852	65,227		603	65,830	57,190	7,560	64,750	+2	25,934	
前年同月比%		168.9						155.9		93.0	

2. 品種別製品生産

(単位：トン)

区分 品種別	月初在庫	受 入				消 費	出 荷			過欠補正	月末在庫
		生 産		その他	計		販 売	その他	計		
		自家生産	受託生産								
二 次 地 金	786	2,145	3,362	81	5,588	1,993	3,608	5,601	+1	774	
合 金 地 金	22,819	53,044	1,456	54	54,554	52,074	1,464	53,538	+1	23,836	
ビ レ ッ ト	25	396	928		1,324	396	928	1,324		25	
母 合 金	808	725	986	410	2,121	726	1,394	2,120		809	
ベースメタル	414	2,019	166	58	2,243	2,001	166	2,167		490	
そ の 他											
計	24,852	58,329	6,898	603	65,830	57,190	7,560	64,750	+2	25,934	

3. 産業部門別出荷

(単位：トン)

品 名	部 門 別										
	鋳 物	ダイカスト	板	押 出	鉄 鋼	合金地金 メーカー 向け	粉	輸 出	その他	計	
アルミニウム二次地金同合金 地金同ビレット等	16,932 (166.5)	36,396 (161.8)	4,558 (130.5)	2,241 (138.9)	2,584 (123.1)	2,034 (123.0)		5 (-)		64,750 (155.9)	

( ) 内数字は前年同月比 %

**アルミニウム二次地金同合金地金等生産実績(2)**

(社)日本アルミニウム合金協会

(平成 22年 1月)

(単位：トン)

区分 原料名	月初在庫	受 入						消 費	出 荷				過欠補正	月末在庫
		購 入		受 託		その他	計		販 売	委 託	その他	計		
		国 内	輸 入	国 内	輸 入									
新 地 金	2,734		3,616		925		4,541	4,308	8	303		311	+9	2,665
ベースメタル	17,506	8,622	5,846	25			14,493	14,646	52	26		78	-5	17,270
アルミくず	5,672	6,543	214				6,757	6,770	101			101	+4	5,562
合金板系統	15,563	17,948	768	6,004			24,720	22,948	2,207	257	9	2,473	-71	14,791
合金くず 鋳物系統	11,073	17,515	1,103	442			19,060	19,920	285	129		414	+14	9,813
ドロス・灰	1,614	5,292		137		143	5,572	5,161	322	84		406	+1	1,620
金属珪素	2,864		3,700		17		3,717	3,653		2		2	+29	2,955
そ の 他	814	873	127	114	2		1,116	1,116	35	56		91	+121	844
計	57,840	56,793	15,374	6,722	944	143	79,976	78,522	3,010	857	9	3,876	+102	55,520

注1) 生産の前年同月比プラスは、いずれも2ヵ月連続。

注2) 前月比で見ると、生産は 99.8%、出荷は97.6%。

注3) 生産・出荷の前年同月比伸び率は、いずれも過去最高。

これは平成21年1月の生産(41.4%)、出荷(44.6%)の大幅な減少によるもので、この傾向はこの先数ヵ月続くことが予想される。  
因みに、これまでの最高はいずれも昭和51年3月で、生産 138.8%、出荷 136.6%。